

# がん治療とお口のケア

口腔は、おいしいものを食べたり、家族や友人と楽しく会話をすることができる大切な器官です。がん治療には、手術、抗がん剤治療、放射線治療、緩和治療などがありますが、口腔内を清潔で健康な状態に維持することは、いずれの治療においても重要です。

当院歯科口腔外科では、歯科医師・歯科衛生士が主治医やかかりつけ歯科医と連携をとりながら、口腔ケアや歯科治療をおこなっています。



## 【手術時の口腔ケアの目的】

不衛生な口腔のまま手術をおこなうと、口腔細菌が原因による **感染性心内膜炎** や **誤嚥性肺炎**、**創部感染** などの術後合併症発生の可能性が高くなります。これらの術後合併症や、全身麻酔経口挿管時口腔トラブル（歯牙破折や脱落など）の発生リスクを下げるために、術前から歯科を受診し、歯科治療や口腔ケアを行う必要があります。

また、口腔環境の改善により痛みや不快感が軽減し、術後早期に食事が再開されることで全身状態の改善と早期退院につなげることを目的とします。



## 口腔合併症発生時の対応

対症療法が主体となりますが、口腔内を保湿し、清潔な状態を維持すること、症状に応じた治療や処方などをおこないます。歯科医師・歯科衛生士の口腔ケア介入により症状を緩和させることが可能となります。抗がん剤治療や放射線治療による口腔粘膜炎は、基本的には可逆性であり、治療が終了すれば症状は軽快することが多いです。

少しでも口腔合併症の発生を減らすために、がん治療開始前に歯科受診をして、う蝕や歯周病治療を完了し、治療開始後も継続的に歯科を受診して、口腔管理を徹底することが重要です。



## 【抗がん剤治療・放射線治療の口腔合併症】

がん治療の影響を受けて口腔細胞が破壊されると、**口内炎（口腔粘膜炎）**、**口腔乾燥**、**味覚障害**、**顎骨の感染** などの様々な口腔合併症が発生します。これらの口腔合併症は、痛みなどの不快症状だけでなく、口から食事を摂ることも障害し、生活の質を大きく損ない、時として治療スケジュールや予後に影響を及ぼします。



## 【緩和治療】

緩和ケアを受ける患者さんの中には、全身状態や薬物の影響により口腔乾燥を生じることが多くあります。また、それに付随して口腔カンジダや口内炎などが発生します。セルフケアが困難な患者さんには、身体に無理のない範囲で口腔ケアや保湿、歯科治療をおこないます。



歯科口腔外科で口腔管理をおこない、お口から自然な形でおいしく食事を食べられることが、がん治療を乗り越える鍵のひとつになります。